

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新城市新庁舎	階数	地上4F
建設地	愛知県新城市東入船115の一部	構造	S造
用途地域	第1種中高層住宅専用地域、第2種住宅地域	平均居住人員	333 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,000 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年3月 予定	評価の実施日	2016年8月1日
敷地面積	3,810 m <sup>2</sup>	作成者	山下設計 蜂須賀 健太
建築面積	1,808 m <sup>2</sup>	確認日	2016年9月1日
延床面積	6,890 m <sup>2</sup>	確認者	山下設計 立川 淳



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 2.3** ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

標準計算: 30%☆☆☆☆ 60%☆☆☆☆ 80%☆☆☆☆ 100%☆☆☆☆ 100%超:☆☆☆☆

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

0 46 92 138 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** **Q のスコア = 3.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.9

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.8

**LR 環境負荷低減性** **LR のスコア = 3.8**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.8</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center;">11.2 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.8</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">5.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>市産木材</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>市産木材</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用  
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}}$  × 100

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$  × 100

みんなの環境活動を応援しています  
モリトキ 2016

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
1.1 騒音								
40<騒音レベル≤45								
4.2								
1.2 遮音								
T-2以上								
Dr-45以上								
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
レベル3程度の空調ゾーニング+ゾーン別に冷房・暖房の選択が								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
ライトシェルフ								
3.2 グレア対策								
ブラインド+庇								
全般照明方式で執務空間600lx								
3.4 照明制御								
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
建築基準法を満たし、全てF☆☆☆☆の建築材料								
4.2 換気								
建築基準法、建築物衛生法を満たす換気量の1.2倍								
窓が開閉可能な居室の自然換気有効開口面積1/30以上								
4.3 運用管理								
ビル全体が禁煙								
4.4								
<b>Q2 サービス性能</b>								
<b>1 機能性</b>								
1.1 機能性・使いやすさ								
果の条例+バリアフリー新法の建築物移動円滑化誘導基準を満								
1.2 心理性・快適性								
天井高さ2.7m								
2.54%のリフレッシュスペース								
インテリアパースによる内装計画の事前検証をしている								
1.3 維持管理								
防汚性の高い内装仕上げ材を使用								
フロア毎に清掃用流しを設置								
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震								
建築基準法に定められた50%の耐震性を有する								
免震装置を導入								
2.2 部品・部材の耐用年数								
40年								
2.4 信頼性								
地震時の部分的被害が全体機能の停止を引起さない対策をとつ								
節水型器具を採用している								
通信手段の多様化を図っている								
3 対応性・更新性								
3.1 空間のゆとり								
3.8m以上								
壁長さ比0.14								
3.2 荷重のゆとり								
3.3 設備の更新性								
2								

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
		<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>						-
1 生物環境の保全と創出	独自③			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④	市産木材を使用		5.0	0.40	-	-	5.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④	市産木材を使用		5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-	-	-	-	3.8
<b>LR1 エネルギー</b>				-	0.40	-	-	4.3
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>				BPI=0.73	5.0	0.30	-	5.0
<b>2 自然エネルギー利用</b>				ライトシェルフを採用	4.0	0.20	-	4.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>					4.8	0.30	-	4.8
集合住宅以外の評価(3a.3b)					4.8	1.00	-	
集合住宅の評価(3c)					-	-	-	
<b>4 効率的運用</b>					3.0	0.20	-	3.0
集合住宅以外の評価					3.0	1.00	-	
4.1 モニタリング					3.0	0.50	-	
4.2 運用管理体制					3.0	0.50	-	
集合住宅の評価					-	-	-	
4.1 モニタリング					-	-	-	
4.2 運用管理体制					-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				-	0.30	-	-	3.6
<b>1 水資源保護</b>					3.4	0.15	-	3.4
1.1 節水				主要水栓に節水コマなどが取付られている	4.0	0.40	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	0.67	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.33	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>					3.8	0.63	-	3.8
2.1 材料使用量の削減					3.0	0.07	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					3.0	0.20	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				② 独自 ブロック、屋内用品(床材)、ビニル床材	5.0	0.20	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					2.0	0.05	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				独自 仕上げ材に自然素材を使用	5.0	0.24	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>					3.2	0.22	-	3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					3.3	0.68	-	
1 消火剤				不活性ガス消火剤を使用	4.0	0.33	-	
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	0.33	-	
3 冷媒					3.0	0.33	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>				-	0.30	-	-	3.3
<b>1 地球温暖化への配慮</b>				① ライフサイクルCO2概算値:80%	3.8	0.33	-	3.8
<b>2 地域環境への配慮</b>					3.5	0.33	-	3.5
2.1 大気汚染防止				燃焼機器を使用していない	5.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25	-	
1 雨水排水負荷低減				独自	3.0	0.25	-	
2 汚水処理負荷抑制				独自	3.0	0.25	-	
3 交通負荷抑制					3.0	0.25	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					3.0	0.25	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>					2.7	0.33	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	
1 騒音				独自	3.0	0.33	-	
2 振動				独自	3.0	0.33	-	
3 悪臭					3.0	0.33	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40	-	
1 風害の抑制					3.0	0.70	-	
2 砂塵の抑制					-	-	-	
3 日照障害の抑制					3.0	0.30	-	
3.3 光害の抑制					1.6	0.20	-	
1 屋外照明及び屋内照明のつら外に漏れる光への対策					1.0	0.70	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.8</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.8</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	4.4	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:11.2%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>5.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	2.0	-	市産木材
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	2.0	-	市産木材

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	<p>新庁舎建設の指針である「新城市新庁舎基本計画」を踏まえ、「基本理念」「基本方針」を具現化するために、以下の5つの「設計の基本方針」に基づき計画を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 市民が集い、市民自治の拠点となる庁舎</li> <li>● 環境首都新城を先導しアピールする、先進的な環境共生庁舎</li> <li>● 防災拠点としての安全・安心を確保した人にやさしい庁舎 地域経済活性化に貢献し、新城のまちと共に生きる、まちづくりの拠点庁舎</li> </ul>
Q1 室内環境	<p>吸音性が必要とされる執務室や会議室、1階共用部などは、吸音性能のある有孔石膏ボードや、岩綿吸音板仕上げとします</p>
Q2 サービス性能	<p>インテリアパースによる内装計画の事前検証を実施します</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>地域性のある素材を外装材に使用して良好な景観を形成しています</p>
LR1 エネルギー	<p>間接光を室内に取り入れながら、直射日光を遮るライトシェルフより庁舎への熱負荷を低減しています</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>リサイクル資材を使用し環境に配慮します</p>
LR3 敷地外環境	<p>シミュレーション等による温熱環境悪化改善の効果の検討します</p>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>